



Data

監督・製作: アイ・ウェイウェイ (艾未未)

.....

.....

.....

.....

.....

.....

■ ■ ショートコメント ■ ■

◆「中国共産党とも対立する戦う現代アーティスト」「今、世界に最も影響力のある現代美術家」という肩書きで、私もその名前だけは知っていたのが、中国人のアイ・ウェイウェイ (艾未未)。1957年生まれ、彼は、2008年に開催された北京オリンピックのメインスタジアム「鳥の巣」の設計に参加したが、人権活動にも力を入れたため中国共産党と対立しており、そのため、現在滞んでいるベルリンから中国への帰国は事実上ムリな状況らしい。

そんな彼だから、現在の“難民問題”は問題視せざるをえなかったらしい。しかし、現代美術家、建築家、キュレーター、文化評論家、社会評論家など多数の肩書きを持っていても、映画監督は本作がはじめて。まあ、ドキュメンタリー映画なら誰でもできるかもしれないが・・・、いやいや、なかなか・・・。

◆直面する政治問題に直撃インタビューをし、それをそのままドキュメンタリー映像に。そんなやり方が、アメリカのマイケル・ムーア監督流のドキュメンタリー映画の作り方だ。そんな彼の最新作の『華氏9.11』(04年)も、すばらしい作品だ(『シネマ43』掲載予定)。

しかし、本作はタイトルもいいし、映像もいいのだが、肝心の現実への迫り方やその切り取り方がイマイチ。本作は全編を通じて数字を並べまくっているが、それだけではちょっと・・・。また、テーマ毎にアイ・ウェイウェイが選んだ詩を貼り付けているが、これもちょっとカッコつけすぎ感が・・・。そして、何よりも欠けているのが、アイ・ウェイウェイ監督流の問題点への切り込み方。こんな問題をさてどうする? というだけの問題提起ではマイケル・ムーア流の「突撃」に比べると、如何にも脆弱だ。

◆難民問題とは一体ナニ？貧困、飢餓等から生まれる昔からの難民問題は今も同じだが、中東やアフリカで近年発生している民族、宗教、内乱等を原因とするヨーロッパへの難民問題は特に深刻。また、トランプ大統領による、アメリカとメキシコとの国境の壁建設も大問題だ。しかし、今なぜこんなに難民問題が世界的規模で発生しているの？幸い、島国日本はせいぜい入管法の改正問題程度で済んでいるが、難民問題を通じてもっと広く世界に目を向ける必要があることは明白だ。

そんな時に、本作が格好の入門書、教科書になることは確実だから、その点は有意義。しかし、面白さの面ではイマイチだ。現代美術家のアイ・ウェイウェイなら、もう少し工夫し、面白いドキュメンタリー映画を作って欲しかったが・・・。

2019（平成31）年2月26日記